

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年2月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678000193
法人名	有限会社 徳寿苑
事業所名	グループホーム 寿の家
所在地	鹿児島県熊毛郡中種子町牧川1680番地1 (電話) 0997-24-8080
自己評価作成日	平成28年1月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では施設敷地内に色々な花木を植えていて四季折々の花や緑が楽しめ、それに伴い鶯やメジロなどの野鳥が飛来しており、清らかな鳴き声を聞いて四季を感じ、安らいで過ごして頂ける様な環境づくりに取り組んでいます。又、施設内に畑を作り利用者と一緒に作物の植え付けや水やり、収穫などの作業を行い、収穫された作物は下処理の手伝いも一緒に行い、施設での食事が出されるので楽しみの一貫となっています。日々の機能訓練とは別に、日常生活動作においても「自分で出来る事は自分で行っていただく」と言う様に時間は掛かっても見守りや一部介助を基本とし、残存機能を使うようにする事で身体能力や思考能力の低下を防ぐように支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年1月30日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は日常的に散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり野菜などもらったりしている。地域行事の小学校や校区運動会・清掃にも積極的に参加している。近所の一人暮らし高齢者見守りネットワークにも取り組んでいる。
- ・個々の排泄習慣を把握し、昼夜ともトイレでの排泄を大切にしている。さらにオムツを減らす取り組みや排泄の自立を支援している。改善がみられた例では家族の喜びがある。
- ・利用者個々人の楽しみを把握したうえで、菜園作業や調理の手伝いなど力量に応じたその人らしい生活ができるように支援している。機能訓練士による定期的な訓練で機能の維持を大切にしている。
- ・管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切にし、資格取得に向けた支援も行っている。職員は自らのグレードアップを目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念として「近隣との触れ合いを大切に」を主に掲げ、行事や催し物に参加するための情報収集を職員一人ひとりが行い、情報は管理者に報告するようにしている。	地域密着型の意義を踏まえた事業所独自の理念である。日々振り返り、会議等で意識づけし、職員全員で掘り下げて話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には何時でも訪問していただく様に声を掛けている。又、地域の行事や催し物には、参加する様に取り組んでいる。	日常的に散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり野菜などもらったりしている。地域行事の小学校や校区運動会・清掃にも積極的に参加している。近所の一人暮らし高齢者見守りネットワークにも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員の地元を中心に、近隣の高齢者のいる家庭へ声掛けを行い、困りごと等の相談を聞く様に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの状況や日常の様子を、写真などの資料を交えて報告している。又、利用者全員の現状や現在までの経緯を文書にして報告し、会議の参加者から意見や要望を取り入れる様にしている。	会議は定期的開催している。事業所の状況や利用者の状態・外部評価の報告などを行い、参加者からも多くの助言や提案が出されている。リハビリ取り入れの提案や服薬指導・機能訓練・ボランティアの受け入れの相談などがあり、支援サービスに取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者には事業所での行事や運営推進会議に毎回参加していただき、事業所の実情や取り組みを見てもらった上で、意見を聞き協力関係を築いている。	町担当者とは、必要に応じて電話や窓口に出向き利用者の相談や情報を交換して助言を貰っている。生活保護の担当者とも連絡し合っている。また運営推進会議を通して協力関係もでき、行政主催の研修会を夕方に設定してもらい、積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置して年3～4回会議を開催し、拘束の是非や、拘束をしないケアの方法等の議論を行っている。又、拘束が必要となった場面を想定をし、その時の手順等の講義も行っている。	身体拘束廃止委員会で定期的に勉強会を実施し、事例検討などで職員の共通認識を図っている。玄関は昼間は施錠せずに、利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく一緒についていくなど、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議やケース会議、朝礼等で、虐待の例を説明して議論している。又、虐待の疑いがある時には報告するように周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員が順次研修に参加するようにしているが、研修の機会が少ない為、今後参加できなかった職員には事業所内で研修を行う事を考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約前に見学をしてもらった上で、事業所、本人、家族、行政、民生委員が参加する入所検討委員会を開催し、入所に当たり、疑問点や問題点がないか話し合いを行って</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関口に意見箱を設置している。又、苦情窓口があり、担当者を配置している。外部評価の結果を玄関口に置いて、自由に閲覧出来るようにしている。家族が来所した際には意見を聞くようにして、運営に反映させるように努めている。</p>	<p>利用者からは日々の関わりの中で意見を聞いている。家族からは面会時や電話・「ことぶき便り」を2ヶ月毎に発行し郵送してそこから思いを聞いている。運営推進会議でも家族の要望を聞き、運営に反映している。意見箱も設置している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議では意見交換を行い又、なんでもノートや普段の会話からも日常的に意見や提案聞いて、運営に反映させる様に努めている。</p>	<p>管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り声をかけたりして、話やすい雰囲気大切にしている。「なんでもノート」を有効活用し、食事や薬・休暇・勤務希望など、職員の様々な意見や提案を聞き、反映を図るよう心がけている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員にやりがいを持たせるべく独自の評価基準を設け給与、待遇面に考慮している。又、職員個々の生活スタイルに合わせられるように勤務希望に取り入れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が色々な研修を受けられる様に、研修の機会や資格試験の機会の確保や、情報の提供を行なっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域で行われる合同研修会に職員が順次参加する事で交流する機会を持っている。相互訪問等は現在行われていないので、今後は行いネットワーク作りも考えたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族、ケアマネージャーと情報交換をして、十分なアセスメントを行い、本人の要望も取り入れる様に話し合いを行って信頼関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用初期には家族へ連絡をこまめに取り、利用者の様子を報告したり、話をする事で潜在的なニーズを聞き取るように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者、家族との話し合いを行い、必要であれば介護保険外でのサービスも説明し、実地している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に生活する仲間として、残存機能を活かして家事などを手伝うことで、生活に意義を持ってもらい、支え合う関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の便りを定期的に発行して家族へ送っている。又、出来るだけ連絡を取り合い、介護方針について意向を聞き、話し合いを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方には気軽に面会に来ていただいている。又、馴染みの人や場所との関係が途切れないように、外出の支援を行っている。	馴染みの友人知人の訪問を奨励し、面会時には部屋やホールでくつろいで話をしている。行きつけの理美容院の利用や買い物店との交流、墓参の支援など継続的關係が途切れないよう働きかけている。外出や外食など家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アセスメントで知り得た情報と、日常生活を観察して掴んだ個々の利用者の性格を職員が把握して、利用者同士のコミュニケーションをサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や他施設への以降時は、情報の共有や経過を聞いて意見交換等をして支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、意向を把握できるようなアセスメントを行い又、普段の会話からも意向を読み取るように努めている。意思疎通が困難な利用者については、家族から聞き取りを行い、対応している。	日々の関わりの中で希望を聞いたり、言葉や表情から意向の把握に努めている。日々の生活の中で発言した事などを「なんでもノート」に書いて職員間で思いや意向の把握をしている。昔の話をする中から思いを聞き取ることもある。把握が困難な場合は、家族からも情報を得ている。職員も気づきを記録し、話し合い、利用者本位の支援に結びつくよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時に本人や家族から十分なアセスメントを行い又、友人や知人が面会に来られた際には、昔話や思い出話などの会話より、今までの生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状況や身体状況を、ケース会議や申し送り、経過記録等を通じて職員全員が把握するように努めている。又、医療機関や家族からも情報を収集して把握に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族を含めた話し合いや、運営推進会議の参加者や定期受診の際に主治医からの意見を取り入れて、本人に適したケアが行われるように、ケース会議で介護計画の作成について議論している。</p>	<p>利用者や家族の意向を確認し、主治医の意見を取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者個々に生活リズム表やバイタル表に記録している。又個々の身体状況に合わせて、記録内容も工夫している。日々の様子や気付いた事は、経過記録やなんでもノートに記録して介護計画に反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の希望に応じて、病院の受診や外出等の介護保険外でのサービスにも対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の方々の協力を得て、利用者個々の能力に応じ、行事や催し物に参加出来るように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を取り入れて、本人にとって良いと思われる医療機関や、治療方法を考慮し、適切な医療が受けられるように支援している。	本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。通院は家族の協力を得ながら支援している。定期受診も行っている。緊急時の対応などには連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 <small>介護職員は、日々のケアの中で収集した情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</small>	体調の変化や怪我の情報は、看護職員に報告して指示を仰ぎ、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の施設での生活状況や、現在の身体状況、既往歴等の情報を医療機関に伝えている。又、早期退院に対しては、施設で行える看護の方法等を相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のケアの方針を本人、家族、担当医も含め話し合いを行い、施設で出来る事、医療機関で出来る支援を考慮して、今後の方針を決めている。	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意書を貰っている。状況変化に伴い主治医の診断を踏まえ状況を伝え、本人・家族と話し合い、方向性を共有できるよう取り組んでいる。終末期には家族が泊まれるように配慮している。看取りの事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応マニュアルや、利用者個々に緊急連絡カードを作成している。又応急手当や初期対応の研修も行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、夜間の想定も含む防災訓練を消防署の指導のもとで行っている。又、災害時には地域の方に協力を得られるように同意を得ている。</p>	<p>年2回消防署立会いのもと、津波時や昼夜想定避難訓練を実施している。自動連絡装置も設置され防災無線もある。運営推進会議の参加者や地域住民の協力体制もできている。災害時の米やインスタント食品・ラーメン・非常食など3日間程度の食品の備蓄がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護の誓約書を、雇用時に書面にて作成している。又、職員会議やケース会議では、一人ひとりに応じた言葉かけや対応を話し合っている。	利用者の人格を尊重する言葉かけや対応に留意している。トイレ誘導や入浴介助・入室時等、プライドを損なわない対応がなされている。外部研修に参加し、人格尊重やプライバシーについても学び、職員全員が理解できるようフィードバックを行い、日々の業務に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から利用者の思いや希望を読み取るように努めている。又、本人の意向をサポートする事で、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康的な生活リズムを壊さない範囲で、一人ひとりの希望を尊重しながら、充実した生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	理美容については本人、家族の希望に沿って施設内外で対応している。又、化粧品や服などの購入を代行して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	郷土料理や季節の食材を献立に取り入れ、食材の下ごしらえを職員と一緒にしながら、料理や食材の説明をして、雰囲気を楽しんでいる。又、個々の能力に応じて準備や片付けも職員と一緒にやっている。	菜園の野菜や旬の食材で、利用者の嗜好に配慮した献立や食事形態を工夫している。菜園で作った食材を使うことで食事を楽しんでいる。つわや筍・安納芋等、旬の食材を使用したり工夫している。野菜の皮むきや後片づけなど職員と一緒にしたりもする。誕生会や季節の行事食などで食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や消費カロリーを考慮して個々に食事や水分摂取量の設定をし、その後も定期的に体重測定を行い設定を変更している。又、食事、水分の摂取量は記録して過不足がないかチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを行い、口腔洗浄剤も使用して清潔に努めている。又、口腔ケアの際には個々の能力に応じて職員が見守りや仕上げのケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を元に排泄パターンを把握し、失敗しないように声掛けや誘導をして、日中はオムツを外したり、夜間もオムツの使用を減らしてトイレでの排泄が自立出来るように支援している。	排泄記録でパターンや習慣を把握し、声かけや誘導によるトイレでの排泄を大切にしている。水分摂取や食材を工夫し、自然排便と立位援助に取り組んでいる。オムツの使用を減らす取り組みで夜間もトイレでの排泄を支援している。改善された例では家族の喜びがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による発熱やイライラを理解し、処方薬と水分量の調節や食材を工夫して予防している。又、腸内運動や体操を行う事で予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	夏は毎日、冬は週3回の入浴体制だが、希望や身体状況、皮膚疾患などに応じて、毎日の入浴にも対応している。又、入浴中には職員と会話をしてコミュニケーションを取り、楽しんでもらえる様に取り組んでいる。	利用者の体調や希望に合わせて、いつでも入浴できるように柔軟に対応している。足浴や手浴・湯船にみかんの皮を入れたり入浴を楽しめるように工夫している。入浴後にスキンミルクやオイルを使用し、乾燥にも注意している。入浴を拒む利用者には声かけや時間調整など職員間で連携して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や年齢、体調に合わせて対応している。又、居室の空調、環境を整え安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を何時でも観覧出来るように薬の保管場所に掲示している。副作用等の症状の変化については、バイタル記録や経過記録を見て確認し、変化がある場合は主治医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握した上で、料理の下ごしらえや洗濯、掃除等を行っている。又、個々の趣味やレクリエーションが楽しめるように必要な物を用意して支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望を聞き取り、出来るだけ希望に添えるように職員の勤務体制を取っている。又、家族にも協力してもらい、外出や外泊も出来るように支援している。	日常的には近隣の散歩を行っている。個々人の状況や希望に応じて、買い物や外出にも出かけている。計画を立てて花見や外食・ロケット打ち上げを見に行ったりしている。家族の協力で外泊や外出・外食などにも支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員会議で所持についてや管理についての話し合いを行っている。個々の能力に応じてお金を所持していて、年に数回買い物に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の希望に応じて電話を掛けるサポートをしている。又、手紙のやりとりについては筆記用具等を用意し、字が書けない利用者には代筆をして支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>空間の構造や設置器具に配慮をし、又、絵画やレクリエーション、行事等の写真を飾ったり、職員と一緒に作った季節感ある手作りの壁画を展示して、親しみのある空間づくりに努めている。</p>	<p>玄関入り口には季節の花が植えてあり、ホールの窓も広く、適度な光も入り、空調設備がされ、過ごしやすい環境である。壁には利用者の作品が貼付してある。ソファや椅子でゆっくり過ごせるような配慮がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人ひとりの居場所がおおよそ決まっており、個々の身体機能や設置場所に配慮してソファや椅子等を配置し、寛げるように工夫している。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れた家具や日用品を使っていただき、安心出来るようにしている。又、本人や家族の写真を飾ったり、職員と一緒に作った作品を飾る等して工夫している。</p>	<p>居室は和室や洋室があり、ベッドはリースである。テレビや寝具・位牌・写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーと廊下や浴室の手すりを設置して自立への安全に配慮している。又、廊下やトイレも広く、車椅子や歩行車での移動も行いやすいので、自立への支援となっている。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない